

五、学生の受け入れ

(1) 学部における学生の受け入れ

【現状】

① 学生募集方法、入学者選抜方法、

本学の入学試験は平成 9 年度(1997)から分離分割方式による前期日程、後期日程で行っており、平成 13 年度から推薦入学を取り入れた。しかし、単位認定による学士入学や編入学制度はなく、また帰国子女、社会人等のための特別選抜も行っていない。募集人員は平成 12 年度までは前期日程 45 名、後期日程 15 名、合計 60 名であったが、推薦入学を取り入れた昨年度からは、推薦入学 6 名程度、前期日程 40 名、後期日程 14 名(推薦者入学者の数によって増減する)の合計 60 名である。推薦入学には和歌山県内学生に限っており、その条件は高等学校教育を該当年度卒業見込みの現役生で、和歌山県内の高等学校に通学しているもの、又は、出願時、扶養義務者が 3 年以上に和歌山県内に居住している者となっている。

推薦入学の選抜方法には第 1 次選抜と第 2 次選抜がある。推薦入学の第 1 次選考には大学入試センター試験の成績を用い、一定の学力水準を満たした者のなかから選抜する。第 2 次選抜は第 1 次選抜合格者の中から、高等学校長の推薦書、調査書、受験生の記述した自己推薦書、面接および健康診断(該当者のみ)により総合的に評価し合格を決定する。

前期日程選抜方法には大学入試センター試験(5 教科 7 科目)による第 1 段階選抜と本学の入試試験(英語、数学、理科、小論文、面接)による第 2 段階選抜がある。後期日程選抜も同じく大学入試センター試験(5 教科 7 科目)による第 1 段階選抜と本学の入試試験(総合問題、面接)による第 2 段階選抜がある。

② 入学者受け入れ方針

本大学は広く全国から学生を募集しており(資料 1)、県内生の入学は 2 割前後で、最近では、女子学生は 4 割前後を占めている(資料 2)。

③ 定員管理

本学の定員は医学部のみ 60 名で、その内訳は、推薦(6 名程度)、前期の 40 名及び後期(14 名程度)とを合わせて計 60 名(内推薦と後期を合わせて 20 名)である。同点合格者が発生したとき以外は、募集定員を厳守している。入学試験時に欠員が生じた場合には補欠合格者の中から追加合格者を順次決定している。平成 9 年度からの入学者数は別表のごとくである。

④ 編入学者、退学者

本学に編入学制度はない。退学者は最近の過去 5 年間で 2 名で基本的に少

ない。ところが平成 9 年以前の 5 年間では 12 名と多い。この相違は、募集方法の違いで、前期の募集人数が少なく(15 名)、後期の募集人数が多かった(45 名)時代(平成 9 年以前)は多くの他大学への再受験者を出した。この経験をふまえて、前期、後期の募集人員を逆にしたところ本学への専願者が増加し、他大学への再受験者の流れは無くなった。このことは第一志望と第二志望の受験生の心理を如実に現している。また、他の要因として、最も本学が統合移転整備をして近代的な設備を備えたことも要因の一つであろう。

【点検・評価】

県内生を対象にした推薦入学の要望はかなり前から存在していた。

推薦入試での課題は、いかに公平で、医学生として優れた学生を選抜するかである。

過去にも一度推薦入学(昭和 46 年度から昭和 50 年度まで)が試みられたが、未解決の課題を残しながら取り止めになった経緯がある。

大学入試センターの成績と高校時代の学習成績概評で推薦入学者の質が保たれるが、大学入試センターの成績を何処に設定、公表するかに問題が残った。ところが平成 13 年度から大学入試センターの成績が公表されるようになったために、一般試験入学者や推薦する高校側にもその成績の水準を公表することが可能となった。そのために、大学入試センターの成績を介して、一般試験合格者と推薦入学者と成績の比較ができ、公平性を担保しつつ推薦入学者を受け入れることが出来るようになった。

【将来の改善・改革に向けた方策】

推薦入学に関しては、いかに公平で、しかも質の高い推薦入学者を選ぶことが重要である。

今後は大学に入ってから推薦入学者の学業成績の追跡を行い、推薦入学実施に当たって、その結果をフィードバックさせることが必要である。

最近の学生が他大学へ転向しなくなったのは、統合移転後の新しい大学が快適であることもあるが、入学時の学生の本学を選んだ意識レベルが高いことと、少人数による家庭的な勉学環境が良いことによると思われ、これからもきめ細かい学生指導を心がけるつもりである。

(2) 大学院における学生の受け入れ

【現状】

① 学生募集方法、入学者選抜方法

大学院生の募集は毎年秋に行い、募集人員(31 人)に満たないときは、1 月に再募集をしている。入学試験は語学試験(英語)と学科試験及び面接である。語学試験は共通であるが、学科試験及び面接は生理系、病理系、社会医学系、内科系、外科系でそれぞれ行う。入学志願資格者は大学の医学、歯学又は獣

医学を履修する課程(修業年限 6 年)を卒業したもの、及び他学部め修士課程を修了した者等で幅広い分野から人材を求めている。また、社会人も入学が可能で、その社会人とは官公庁、研究所、企業、病院に勤務し、勤務成績が優秀であり、入学後もその職を有する者を云う。

② 入学者受け入れ方針

本大学の大学院生はほとんどが医学部出身者であるが、大学院生の受け入れは広く行われており、学内、学外出身者を問わず、また、その国籍も問わない。したがって、大学院生の約半分は学外出身者が占め、外国人留学生(主に中国)も年々増えている(資料 3)。

③ 定員管理

本学の大学院の定数は、生理系、病理系、社会医学系、内科系、外科系合わせて 31 名である。本大学の大学院生は数年前までは少なく、募集人員の半分にも満たなかったが、ここ数年大学院の改革に着手した結果、今年度は初めて定員を満たした(資料 3)。途中で大学院生が退学、休学することはまれで、この状態がここ数年続くことを期待している。

④ 編入学者、退学者

編入学者、退学者は極めて稀である。

【点検・評価】

本学が平成 10 年に総合移転した際に、大学院の専用施設が整備され、大学院生の活動の場が広がったことが最近の大学院生の充足率に関係している。これには、先端医学研究所、RI 実験施設、動物実験施設、中央研究機器施設があり、その設備はかなり充実した。また、同時に大学院整備検討委員会が発足して、大学院の講義カリキュラムの充実をはかったことも大きく影響している。

【将来の改善・改革に向けた方策】

大学院生の受け入れに際して将来問題になるのは講座の研究費の少なさである。大学院生を抱えれば、その研究費は授業料でまかなえるものでなく、講座研究費で支弁しすることとなる。この研究費の問題は、大学院生自身の財政的支援と合わせて深刻な問題である。また、学問が高度でその内容も専門分野を越えて多岐に渡ってきているので、一つの講座でその学生の学問的要求を満たすことが困難になっており、講座間、大学間の交流が必須となってくる。それに伴い、講座間の壁を取り払って協調体制も問題になって来るだろう。後者は大学の意志、具体的には各講座の教授の意識改革で解決できるとしても、前者はかなり英断を持って、大学院に投資すべきである。これ

は大学の将来の発展に最も重要である。

(3) 研究生の受け入れ

【現状】

大学院の課程を経ない者で、研究歴5年以上（研究生甲）および6年以上（研究生乙）の研究期間を経て本学大学院医学研究科に論文を提出し、所定の審査に合格した場合は、医学（博士）が授与される。

平成14年4月1日現在、研究生甲として441名、研究生乙として9名が修学し、本学における研究活動の大きな力となっている。

研究生は医師のみならず看護師、保健師等の医療関係者、自然科学領域の研究者等多彩であり学際的な研究を展開する上で重要な位置を占める。

【点検・評価】

大学院修了資格試験のうち、語学（英語）試験は、大学院入学試験と同じ内容で実施されるようになった。また、学位審査手続きも大学院と同様で、厳格な審査のもとに研究成果が評価されている。

研究生の専門領域も医学にかかわらず広く自然科学の領域を対象として受け入れて、社会に開かれた大学として評価できる。

【将来の改善・改革に向けた方策】

大学院の充実のなかで、研究生の位置づけも論議されよう。研究生の研究活動が大学院におけるそれを刺激し発展するようなよりよいシステムを構築する必要がある。

今後とも、医学医療、保健をとりまく広い分野から研究生を受け入れることが望まれる。

(資料 1)

平成 1 4 ・ 1 5 年度出身都道府県別入学者数

	平成 1 4 年度	平成 1 5 年度
和歌山	2 3 (1 3)	2 0 (9)
大 阪	1 3 (4)	1 4 (5)
奈 良	7 (3)	7 (2)
京 都	3 (0)	2 (0)
兵 庫	1 (1)	3 (2)
三 重	1 (1)	1 (0)
東 京	4 (1)	2 (2)
埼 玉	1 (1)	1 (0)
北海道	1 (0)	1 (0)
その他	6 (2)	9 (4)
合 計	6 0 (2 6)	6 0 (2 4)

() 内は女子学生数

(資料 2)

入学者数 (県内 ・ 県外)

	県 内	県 外	合 計
9 年度	7	5 4	6 1
1 0 年度	1 4	4 6	6 0
1 1 年度	1 0	5 0	6 0
1 2 年度	1 3	4 8	6 1
1 3 年度	1 2	4 8	6 0
1 4 年度	2 2	3 8	6 0
1 5 年度	1 8	4 2	6 0

(資料 3)

大学院入学者数 (県内 ・ 県外)

	学 内	学 外	合 計
1 0 年度	4	3 (外国人 0)	7
1 1 年度	1 4	4 (外国人 2)	1 8
1 2 年度	8	6 (外国人 3)	1 4
1 3 年度	1 2	1 5 (外国人 2)	2 7
1 4 年度	1 5	1 5 (外国人 4)	3 0
1 5 年度	1 0	2 1 (外国人 3)	3 1